

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (四国)		スーパー（店長）	・値上げによる若干の減速が予測されるが、非常に気温が高く、春物・夏物の売上が好調になると予想されるので、景気は良くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・ここ2～3か月は好況であり、ゴールデンウィークも控えているので、このまま順調に行けば良い結果となるのではないかと期待している。
		乗用車販売店（役員）	・新型車への需要は堅調で、安全装置への買換えも進んでいる。
		通信会社（技術）	・転宅シーズンを迎え、販売量に大きな動きが予想される。
		商店街（代表者）	・現状の経済状況や政治的な不安感があり、先行きが不透明な感じがする。前年同様な売上状況で推移すると予想される。
		商店街（代表者）	・4月には観光客を中心に、来街客が増加すると思う。7月には県市合築の図書館がオープンするため、来街客が増加し、明るい話題になってくる。
		商店街（事務局長）	・2月以降に下落した株価の行方次第で、現在景気を下支えている富裕層の購買意欲に水を差さないか懸念している。4月以降に株価は持ち直すと期待しているものの、米国大統領の中間選挙を控えてどのような政策を掲げるかによっては、世界経済が動揺し日本の消費構造にも多大な影響を与えるため、先行きは不透明であるといえる。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・今の状況に変化があるとは、思えない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・景気は変わらないかもしれないが、仕入値の高止まりが収まらなければ商品に影響が出てくる。
		百貨店（販売促進担当）	・前年は堅調に上昇した高額品の売上が12月以降失速し、回復が遅れている。
		百貨店（販売促進）	・インバウンドは好調であっても、国内経済の力強さが感じられない。
		百貨店（営業統括担当）	・集客の強化は実施するも、衣料品のマイナストrendは継続すると予想する。客の購買意欲の高まりを感じられない。
		スーパー（企画担当）	・価格が上昇したので売上は好調に見えるが、客数の状況はほぼ変わらない。
		スーパー（財務担当）	・賃上げにより、ある程度消費回復を見込むが、競争環境の厳しさは続く。
		コンビニ（店長）	・現状がしばらく続く。
		コンビニ（商品担当）	・気温上昇と天候に恵まれて販売が見込める反面、3月の駆け込み需要の反動も懸念されるため、現実的には変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・これから2～3か月先も状況は変わらず、来客数も少なく、客単価も上昇しない。客も高単価の物を買うという感じではない。
		衣料品専門店（営業責任者）	・今までと変わらずに客の財布のひもは固く、必要なもの以外は購入されないケースが多い。景気が良くなっている感じは見受けられない。
		乗用車販売店（従業員）	・当面、新車販売台数は前年と比べて増減は少ないと予想する。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・酒類の値上げ商品が増加しているため、客の購入金額が減少している。
	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・政治、経済が落ち着かないと、消費を増やす気分にならない。	
	観光型旅館（経営者）	・四国の課題は多様だが、四国全体が良くなっていく必要がある。新幹線誘致等も議論しているが、地元だけでなく四国全体のレベルが上昇しなければ難しい。	
	都市型ホテル（経営者）	・景気には左右されないが、ホテルプライダルという業態が参入してきていることが懸念される。	
	タクシー運転手	・これまで逆打ちや1200年記念等の記念の年が続いたが、今年は、お遍路が始まったとはいえ、少しお遍路さんも少なく、今と変わる状況ではない。	
	タクシー運転手	・ゴールデンウィークから梅雨入りにかけて、客の人数も多くなると思うが、単価的には下落すると思う。3月と比べても、あまり変わらない。	
	通信会社（支店長）	・当面の変動要素が見当たらない。	
	通信会社（営業担当）	・春商戦も一段落する。	
	観光遊園地（職員）	・集客に関するイベントなどが予定されていない。	

	競輪競馬（マネージャー）	・ビッグレースが開催予定であり、一時的な売上回復は見込めるが、利用者は高齢者層が中心で、若者世代の集客が望めないため景気は横ばいに推移するだろう。
	美容室（経営者）	・新規客が少ないため。
	商店街（代表者）	・個人消費は可処分所得の変化に大いに影響を受ける。国内政治の混乱、貿易摩擦の影響、米朝会談の成否、差し迫ってきた消費税の引上げ等々、明るいニュースはほとんど見当たらない。
	一般小売店〔乾物〕（店員）	・観光産業に携わる者として、地元市政等の混乱の影響は大きいと思う。
	コンビニ（総務）	・天候や気温に左右されるが、来店客数は徐々に減少傾向にある。
	衣料品専門店（経営者）	・米国の鋼鉄関税に関して、日本が対象国から除外されないと悪くなる。
	家電量販店（副店長）	・シングル需要も終わり、今後はゴールデンウィークにも入るため、期待できない。
	乗用車販売店（従業員）	・決算商戦の反動や新型車の発売予定がないなど、良くなる要素が見当たらない。
	乗用車販売店（営業担当）	・4～5月は需要期の反動で販売台数の増加は期待できない。
	住開連専門店（経営者）	・現在、株価がかなり下落している。米国の保護主義が株式に非常に悪い影響を与えている。政治も、今は少し混乱している感じで、今はまだ3か月先は読みにくい。
	通信会社（営業部長）	・春商戦が終わり、新商品発売前の時期となるため。
	美容室（経営者）	・卒業、入学シーズンも終わり、客の動きも鈍化する。
	設計事務所（所長）	・民間の設備投資は堅調だが、公共の箱物が減少傾向にある。
	× 一般小売店〔酒〕（販売担当）	・業務用ビール類の値上げがあり、今後は料飲店でのビールの消費がどう変わるか不安である。
	× コンビニ（店長）	・3月の現状を踏まえると、今後も特に改善は見込めない。
企業 動向 関連		
(四国)	食料品製造業（商品統括）	・食品業界においても人件費や原料費の上昇による価格上昇が客に受け入れられており、今後は経営面や求人条件の改善にも生かせると考えられる。
	輸送業（経営者）	・安定政権が続けば良くなると思う。5月頃の世界情勢により大きく変わると思う。
	金融業（副支店長）	・直近の業績安定を背景に運転資金需要は堅調。全体として設備投資にはまだ慎重な姿勢がみられるが、徐々に案件も出ていることから先行きに好感が持てる企業も増加している。
	農林水産業（職員）	・これから更に悪化することはないと思うが、TPP11の締結等による輸入品との競合、米国の保護主義等から、もう少し先をみれば、1次・2次産業については今後厳しさが増加するのではないかと。
	食料品製造業（経営者）	・原材料、販売管理費等、経費削減できる要因がなく、売上も大幅な増加を見込んでいない。
	木材木製品製造業（資材購買）	・大きく需要が落ちる市況感でもない。現時点の市況感が続く1年だと感じている。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・今後も3月くらいの状況は保っていけるだろう。
	鉄鋼業（総務部長）	・受注販売量は増加するが、資材の値上がりを販売価格に転嫁できていない。
	電気機械器具製造業（経理）	・得意先からの情報や受注量について、特段の変化が見られない。
	建設業（経営者）	・見通しが立たない。
	建設業（経営者）	・公共事業の予算執行が見通しどおりであったことと、手持ち工事量も例年並みであることから、30年度の第1四半期は大きく変動がない。
	輸送業（営業）	・燃料油価格の高騰やアルバイトの時給上昇が経費を増加させ、経営を圧迫する要因となっているが、運賃にそれらのコスト増加分を転嫁することは容易ではない。
	広告代理店（経営者）	・駅ターミナルビルの年間販促受注やインバウンド関連でホテルからの受注増加はあるが、多くの得意先は競争が厳しいため広告費等の削減傾向が強く、全体としては変わらない。
	公認会計士	・インバウンド効果の影響が大きいホテル業界は改善傾向がみられるが、タクシー業界においては人手不足もあり、売上が十分に伸びていない状況が続いている。全体で見れば、変わらない。
	繊維工業（経営者）	・全般的に変わらずデフレ経済である。市場では薄利商品があふれ、従業員の給与も上がらず、消費不振という連鎖が起こっている。

		化学工業（所長）	・製品の価格改定を進めており、受注量が減少する恐れがある。
		電気機械器具製造業（経営者）	・再生可能エネルギー事業等を営んでいるが、市場は厳しくなっている。
		通信業（営業担当）	・夏に向けてスポットCMの市況に勢いが無い。企業も景気の先行きや経済動向などを考え、様子見をしている。
	x	輸送業（支店長）	・米中貿易戦争の勃発、円高リスクによる日本景気の先行きが不透明。
雇用 関連		-	-
(四国)		人材派遣会社（営業担当）	・地方への仕事のアウトソーシング化が今後も進みそうであるため。
		学校〔大学〕（就職担当）	・求人を行っても、思うように人材を確保できず、地方においても賃金の上昇が不可避になると想定される。
		人材派遣会社（営業）	・労働契約法改正に伴い5年以上の契約社員の無期雇用化が開始される。雇用形態のルール変更が景気にどのような影響を及ぼすかが今後の課題点となる。
		求人情報誌（営業）	・引き続き人手不足解消の目処が立っていない企業が多く、景気は横ばい。2019年度の新卒採用が始まったが、説明会への学生動員に苦戦している企業が多く、採用成功の見込みが不透明。
		職業安定所（職員）	・求人、求職者の動き共に大きな変化はみられず、現状は続く。
		職業安定所（職員）	・2月の有効求人倍率は1.62倍で、一昨年7月以降、1.3倍以上が続き、大きな変動がない。
		民間職業紹介機関（所長）	・新卒採用において、計画どおりに採用できたという企業は少なく、次年度の採用計画もまだ決まっていない企業も多い。中小企業規模の製造業では新卒採用は見込めないという閉塞感が漂っている。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・現在異動時期のため、一時的に求人数が増加しているが、次第に減少することが予想される。
		x	人材派遣会社（営業担当）